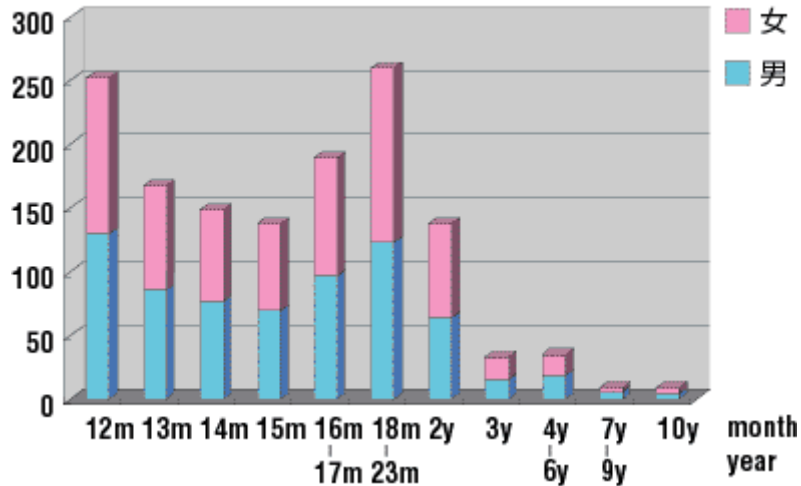


麻疹ワクチン接種後副反応、健康調査のまとめ

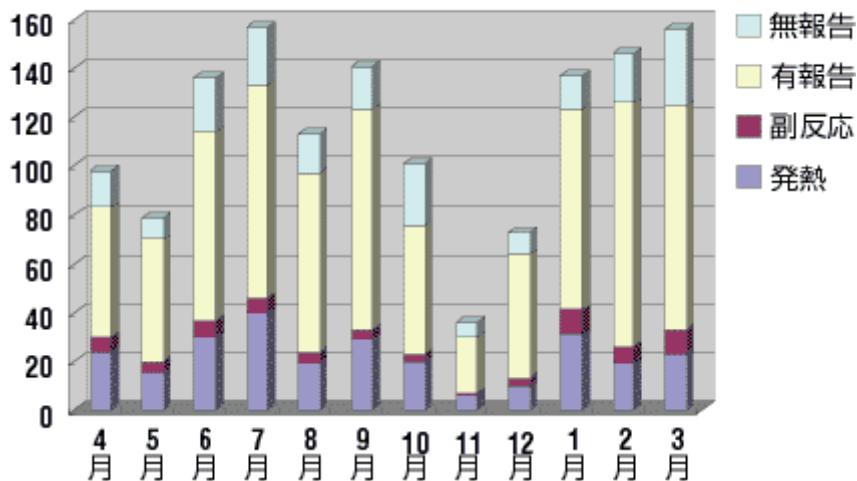
1997年4月の開院以来、2002年3月までの5年に1381例（男695例、女686例）に麻疹ワクチン接種を行い（武田816例、北里545例、ピケン20例）、1170例（84.7%）で経過表を回収することができました。その結果を報告致します。

麻疹ワクチン年齢別接種数



グラフ1)は接種例1381例を年齢別にみたものです。1歳での接種が1157例（83.8%）を占めていました。これを詳しくみると12M252例、13M168例、14M149例、15M138例、16-17M190例、18-23M260例でした。1歳になってのすぐの接種が目立ちます。2歳138例、3歳33例、4-6歳35例、7-9歳9例、10歳以上9例で15歳が最高年齢でした。1歳での接種例が多いのが特徴です。誕生日を迎えたら麻疹ワクチンというのが定着してきました。今後は風疹、水痘、オタフクワクチンを広めていきたいと思えます。

麻疹ワクチン副反応率



ここからの検討は、10歳未満1372例（経過表回収1164例）で行います。

グラフ2)は1372例を接種した月別にみたものです。一番上の青色部分は報告がなかった件数を表しています。青色以下が報告例1164例です。黄色部分は副反応も何もなかった群です。赤色部分以下が副反応例で紫部分は発熱例である事を示しています。

多少の鼻水、咳位なら接種を行っています。熱は37.3度位までなら、元気があれば接種を行っています。体温だけでは、何度の熱からを副反応として判断するのか難しいのです。接種後の咳、鼻水、微熱は副反応としてカウントしていない事を御了承下さい。

月別接種数を見ますと、7月が最も多くて157例、11月が最も少なくても36例でした。4、5月はポリオワクチンの影響で、8月は夏という事で、10-12月はポリオ、インフルエンザワクチンの影響で特に11月に最も接種数の減少が見られました。

生ワクチンの接種は夏は避けて、4、5月、10、11月はポリオがあり、冬はインフルエンザが流行するとなると、接種を受ける時がありません。

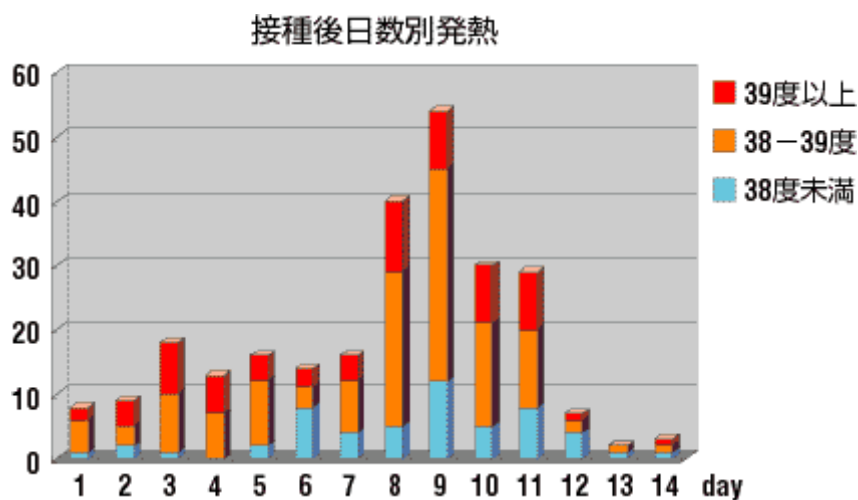
今はポリオは日本では流行していないので、少しは遅れても先に麻疹ワクチンを接種した方が良いという意見もあります。しかし正解は、外国では常識のようにポリオも個別接種にして麻疹ワクチンとの同時接種も認めるということだと思っています。

次は副反応として発熱をとりあげます。発熱は266/1164(22.9%)にみられました。静岡県(静岡市?)では、何故だか夏場は特に生ワクチン接種を避けるという指導がなされてきた傾向があるようでした。私は問題ないという立場です。そこで実際にどうなのか発熱率を月別に分析しますと、4月24/83(28.9%)、5月15/70(21.4%)、6月30/114(26.3%)、7月40/133(30.0%)、8月19/97(19.6%)、9月29/123(23.6%)、10月20/76(26.3%)、11月6/30(20.0%)、12月10/64(15.6%)、1月31/123(25.2%)、2月19/126(15.1%)、3月23/125(18.4%)です。

7月が30%と最も高くなっていますが、4月でも28.9%、1月でも25.2%であり、8月では19.6%足らずです。夏場が多いという事はありませんでした。尤も副反応は発熱に限りませんが、他のものが、季節によって異なるとは思えません。

発熱率そのものを前回報告したインフルエンザと比べてみます。インフルエンザワクチンでの発熱率は1歳33/276(12.0%)、2歳51/489(10.4%)、3歳59/438(13.8%)でしたので、明らかに麻疹ワクチンはインフルエンザワクチンより発熱する例が多いと言えます。これは生ワクチンという宿命でしょうか？

DPTワクチンでは月別にみた発熱率は8.9-15.0%であった事を附記しておきます。



グラフ 3) は発熱例 266 例を接種後日数別にみたものです。これは発熱開始日でみたものです。なかには 4 日、5 日間の発熱例もありますので、例えば接種後 7 日目に発熱している例はここに図示したものより増えます。発熱体温は発熱期間中の最高値でみたものです。

接種日当日の発熱が 7 例、しかも 2 例が 39 度以上でした。2 日の発熱は 9 例、4 例が 39 度以上でした。8 日目 40 例 (11 例が 39 度以上)、9 日目 54 例 (9 例が 39 度以上) でした。

麻疹ワクチンでは接種後 1、2 日の発熱は考えにくいところです。1 歳児では 7/1164、9/1164、0.60% から 0.77% このぐらひは、ワクチン接種なしで、同じ検討をしても、発熱するのではないのでしょうか。8-11 日の発熱はワクチンによるものが多いと考えています。

グラフにはしませんが発熱期間でみると 1 日 87 例、2 日 83 例、3 日 59 例、4 日 21 例、5 日 5 例、6 日 2 例、7 日 0 例、8 日 2 例でした。

またはっきりとした診断がついていたものをあげてみます。

水痘 2 例、突発性発疹 8 例、熱性痙攣 3 例

入院例は肺炎 (1 歳 1 ヶ月)、熱性痙攣 (1 歳 7 ヶ月) の 2 例でした。

4) その他の副反応

接種部位局所の腫脹は 26/1164 (2.2%) でした。しかし少しという記載が多く、3cm を越えるものはなく、あらわれた時期も一定のものはありませんでした。

発疹は 96/1164 (8.2%) であり、このうち 55 例は発熱を伴っていました。

まとめ

- 1) 1997.4 から 2002.3 の 5 年間に 10 歳未満の子供達、1372 例に麻疹ワクチン接種を行い、1164 例 84.8% で経過表を回収することが出来た。皆様方の高い関心のあらわれと思います。
- 2) 副反応としては、発熱 226/1164 (22.9%)、発疹 96/1164 (8.2%)、腫脹 26/1164 (2.2%) であった。不活化ワクチンである、インフルエンザ、DPT と比較すると、局所の腫脹は少

ないが、発熱率はやや高いと言える。

- 3) 月別に接種数をみると36(11月)-157(7月)とバラツキが見られた。
- 4) 月別に発熱率をみると特に夏場を避けるべきという根拠はなかった。
- 5) 今後は、経過表の回収率95%以上を目指し、ワクチン接種後何が起きているのかをより正確に把握していきたいと思います。
- 6) ただ時に記載が不十分な事があるのが残念です。腫脹少しというのではなく、0.何cmとか何mmと記載して下さい。発熱のみではなく、一日の最高体温の記載を御願い致します。
- 7) ワクチン接種前、後に幾多の質問を受けます。短時間での回答には難しいものがあります。

2003年10月12日 まつもとこどもクリニック

麻疹ワクチン接種 Q&A

1) 麻疹ワクチンは1回接種で終生免疫を得られるのでしょうか？

答えはNoです。麻疹との接触が全くない状態が10年、15年も続くと、ワクチンで得られた、抗体は下がり続け、中学生、高校生頃に突然麻疹が流行したりするとやはり、麻疹に罹患してしまう事があります。しかしこの時は軽症で修飾麻疹と呼ばれています。事実最近ではワクチン未接種での成人の重症自然麻疹、ワクチン接種例の修飾麻疹が問題になっています。

やはり諸外国では当たり前になっている麻疹ワクチン2回接種が必要と思います。日本でも2回接種が定着して欲しいと願っています。

2) 保育所、託児所に預けるので麻疹ワクチンを1歳前に接種を受ける事が必要ですか？

最近そういう指導がされているのが事実です。生後6ヶ月までは母親からの受働免疫があり、子供は罹患しないと言われて来ました。しかし上にも述べたように今のお母さん方は自然麻疹に罹患していた時代ではなく、麻疹ワクチンのみの世代となってきています。ですから母親の抗体も低値で当然受働免疫も低くなり、より乳児麻疹が心配されるのは事実です。

集団保育児の場合、1歳前9ヶ月からの接種を勧める先生も多くみえますが、その場合は2、3歳でもう一度麻疹ワクチンを受ける必要があります。ちゃんとその時受けてくれるか心配です。

私はそれより1歳半をすぎても麻疹ワクチン未接種の子供がたくさんいるのではと思います。まずこの年齢群で未接種例を見逃さず、麻疹ワクチン接種を行う事が先決ではと考えています。その点で、集団保育の場での保母の方々の協力や理解が必要だと考えます。本当は1歳半過ぎは義務化が必要だと思います。

3) ワクチン接種は、麻疹、風疹にかかった時に症状を軽くするためのものですか？

もちろん接種すれば100%の抗体がつく訳ではありません。しかし大体麻疹、風疹では98-99%は抗体がつきます。つまり軽くすまずワクチンではなく、かからなくするワクチンです。ですが、ワクチン接種率が向上して、まわりで麻疹をみなくなればなるほど、上に述べた理由で15年、20年後には軽く麻疹にかかる危険性が高くなるので、2回接種が必要となります。つまり麻疹が減った今だからこそ2回接種がより必要になるわけです。外国ではそんな事がないように2回接種が一般に定着しています。